

# 山行報告



## 市ノ池 ビバーク訓練

日 時：10月5日（土）～6日（日）

参加者：砂川(延) 香川 北口 苦瓜 中村 平井 村上(敬) 田口(末) 田口(善) 木村 峯山  
田中 (美) 有本 上川 竹内 高嶋

行動記録：

- 10月5日 市ノ池公園みどりの相談所前集合 15:00 荷物の運搬 15:00～15:15  
テント設営訓練 15:15～16:00 ビバークでのツェルトの使い方 16:00～16:20  
セルフレスキュー：担架搬送と傷病者の移動方法 16:20～16:40  
夕食の炊事（バーベキュー） 17:00～18:00 懇談・交流会 18:00～20:00
- 10月6日 ストレッチ・三菱の森散策 6:20～7:00 朝食準備・食事 7:00～8:30  
テント撤収・後片付け・荷物運搬、8:30～9:00 例会へ移動

## ★ 楽しかったビバーク訓練

10月5日PM3時、市ノ池公園みどりの相談所前に集合。天気予報では雨だったので心配しましたが、なんとか晴れていてよかった。皆で持ち寄った道具を一輪車5～6台で目的地に移動させ、テント張りから始める。3～4人に一つのテントを使用で、4つのテントを設置する事になりました。テントの部品の名前も分からず、それってどんな物と聞きながらあーでもない、こーでもないと言いながら組み立てが終了。会長さんが最後の点検に廻られてOKができました。

### ※ ツェルトの活用方法

- ・ ストックを2本使って両脇に立てて張る
- ・ ベンチレーターにロープを通して立木に結んで使用
- ・ 体にツェルトを巻く又は被る
- ・ 非常時に多目的に使用出来る軽量シートでもよい。

※ 傷病者が出た時にどうしたら移動させられるか？

- ・ 傷病者をあおむけに寝かせた状態でお

## 田中

互いにあおむけに寝て、足と手を上手に利用してうつぶせになり背負って立ち上がる（説明が難しいです）

- ・ 少しの移動は背後に回り上半身を起こし、支えて移動・ロープを輪にして二人で持ち、そのロープの上にケガ人を座らせる。



- ・ 三人がお互いに傷病者の下で腕を組んで持ち上げる。実際に現場で教えてもらいわかり易かった。

いよいよ楽しみのバーベキューの用意です。雲行が怪しくなってきたり雨がポツリポツリと落ちてきました。男性は焼く係、女性は食べる係と自然に分かれて、和やかな雰囲気乾杯。

卓上?ではサラダ、ゴーヤのサラダ、枝豆等々が沢山並びお腹いっぱい頂きました。雨が時々強くなったりして、男性の方たちは気の毒でした。

火の使用は20時までとなっている為、宴会もこれまで。それぞれテントに分かれ、私のテントは4人でリュックを入れるとカツカツになり、どうして寝るか?リュックを枕、又はリュックに足を乗せて横になるしかない。おしゃべりしていても山行の事、勉強になりました。話しに花が咲いていましたが、何時しかどのテントも静かになり闇の世界へと眠りにつきました。

## ★ ビバーク訓練を体験して

市ノ池キャンプ場に15時集合、まず今夜と明朝の食料確保。一輪車で荷物運び、あいにくの曇天、時折パラパラ。まずは、テント設営、男性陣1張り、女性陣3張り、ワイワイガヤガヤ、それでも何とかテントは形になり、リーダーに最終チェックを受け第一課題完了。怪しい天候のためまずは荷物を各々のテントに入れ、第二課題ツェルトの使い方の講習、ストックや傘を使っての実演、しかし”薄い”これでは激しい雨には耐えきれないだろうな?と思いながら寒さを防ぐには、体に巻きつけるのが一番だなと、一番簡単な方法をとろうとしている自分がある……。第三課題救護方の実演、柔道の寝技のごとく横たわる人を背負って起き上がる(一番軽いTさんが負傷者、一番若い途中参加のTさんが救護者、妥当!)シュリングを使っての負傷者の運搬、二人三脚(足ではなく手であるが)のように二人で手を組み、その上に負傷者を乗せるが、手が痛い、シュリングがくいこむ、これは至難の業、などと危機感のない事を思いながら、いざとなったらどうする? まず、自分の身を安全に怪我をしない行動をとる

6日、朝6時から「たかみくらの森」を散策。早朝は空気が澄みきっていて気持ち良かったです。テントに戻り朝食の用意、ご飯のおこげもほとんどなく上手に炊き上がり、朝とお昼用のおむすびをして、具の多いお味噌汁、たくわんで頂きました。後片付け、荷物の搬出と無事ビバーク訓練が終わり、10月の例会に出席しました。

会長さん、学習会B班の仲間の皆さんご苦労様でした。

## 田口

事が大事と思いながら、本日の課題終了、いよいよ楽しい夕食タイム。Tさん所有のりっぱなターフを張って本格的キャンプ……!

翌朝テントの収納を教わり、三菱の森へ散策、高御位山遊会の植樹した木を探しに(あの辺かなあ……?) 出来れば、ビバークの必要などない山行がいいと思うが、山の天気はむずかしい。やはり天気図は読めるに越したことはない、そして、読図も、まだまだ勉強は続きそう……。

一年間B班の学習会に参加して、出来のいい受講生ではなかったが同期の仲間の絆が深まった気がします、又この仲間が集まりたいと思いました。

又、一年間指導して下さいましたリーダーには感謝の気持ちでいっぱいです、ありがとうございました。



## 雨飾山

日時：10月11日（金）～13日（日）

参加者：L:砂川(延) SL:尾越 大谷 兼澤 塩津 高嶋 田羅間(勤) 田羅間(易) 西口 三木(悦)  
村上(敬)

行動記録:

10月11日（金）

大阪7:40→(サンダーバード3号)→金沢10:24(10:34発)(北越3号)→糸魚川12:06  
ひすい大国(レンタカー借用)12:55→雨飾高原キャンプ場14:30(キャンプ場テント泊)  
※雨飾山荘へレンタカー1台を回送

10月12日（土）

雨飾高原キャンプ場5:35～休憩6:25(6:35発)～ブナ平6:45～荒菅沢7:25(7:45発)～尾  
根窪地休憩8:45(8:55発)～笹平、雨飾山荘分岐9:40(9:55発)～雨飾山10:30(10:50発)  
～笹平 雨飾山荘分岐11:20(11:35発)～中の池12:20(12:30発)～いっぷく所休憩  
13:20(13:30発)～難所のぞき14:40～雨飾山荘15:25(泊)  
※雨飾高原キャンプ場に駐車のリントカー2台を回収

10月13日（日）

雨飾山荘10:00→雨飾山(猫の耳)展望所10:20(10:35発)→道の駅小谷11:10(11:40発)  
→糸魚川駅ヒスイ大国(レンタカー返却)12:30→そば処「金七」12:45(13:30発)→糸魚川  
13:53発(はくたか10号)→富山14:30(15:22発)→(サンダーバード34号)新大阪18:30

### ★ 満天の星にキラキラ輝いていた雨飾高原キャンプ場 10月11日 田羅間

2泊3日の山行(糸魚川～雨飾高原キャンプ場～雨飾山頂～雨飾山荘)に11名が参加。最初の11日は、雨飾高原キャンプ場でテント泊、2日目の12日は、雨飾山荘泊のスケジュールで、JR三宮駅を6時58分発に乗り、大阪駅でサンダーバードに乗り継ぎ、富山駅経由で約5時間余り列車に揺られて、やっと糸魚川駅に到着しました。その後、隣接している駅レンタカーで車を3台借り受け、雨飾高原キャンプ場へと向かいました。

到着すると、テントの設営、食事の準備に分散、同時に、明日このキャンプ場に残す2台の車を回送する準備手段として、私と砂川会長は、2台の車で明日の宿泊場所雨飾山荘へ1台車を置いてくるために、往復2時間余

### ★ 「猫の耳」と言われる双耳峰・雨飾山 10月12日

午前3時 テントの外に出てみた。気温は4度。星・星・星……満天に星!! その星く

りで車を移動しました。

夕食を終えるころには、ポツポツと雨が降り

り始めたので早々に全員が3張のテントに入り就寝、夜中の1

2時過ぎまでは、雨が降ったり止んだり、テントに当たる雨音が聞こえました。暫くして登山客の車の騒音もあり外に出ると、なんと空には、満天の星空の輝きを眺めることができました。明日は晴天の山行日和になることを、期待し眠りにつきました。



### 兼澤

ん達が「オハヨー 雲くん達がいなくなって良かったね!!」と、キラキラ輝いて迎えてく

れた。

昨夜は、テントを打つ雨音を子守唄にして眠りに就いたのだったが……今日の山行は“晴れ”を確信した。

テントをレンタカーに収納した後、足も心も軽く出発した。やがて荒菅沢(アラスゲサワ)に到着した。顔を洗った。水は冷たくて気持ちがスッキリした。雨飾山の布団菱の岩壁を見上げ、沢の流れと音を楽しみながらウキウキ、ワクワクの朝食タイムとなった。



再び尾根に取り付いた頃から、ガスが発生し始め次第に濃くなってきた。やがて、周囲が全く見えなくなった。

「猫の耳」と言われる双耳峰の北峰に到着した。ガスに遮られ全く景色は見えなかった。風も冷たかった。5体の仏さまに登頂のお礼と下山の安全を祈願し、南峰に向かった。三角点と標柱のある南峰でも、風も冷たく景色も見えなかった。が、突然ガスが動き、つい先ほど登った北峰の石仏達が、切り落ちた崖が、そして、遠くの山々の姿が、チラチラと望めるようになってきた。時々お日さまも顔

を出してくれた。暖かくなった、穏やかな気持ちになった、記念写真を撮った、行動食を楽しんだ、至福の時間を得た。きっと先ほどの仏さま達が、私たちにご褒美を下さったのだと思った。

下山途中から、雨模様となった。気温もドンドン下降し5度を割った。ただひたすらに、長く単調な下山道。雨がみぞれ混じりになった。悶々とした気持ちになった。そんな中、大きな声でムードを明るくしようとする人もあり、また、お互いに声を掛け合いながら、気分転換をしつつ、歩き続けた。林道が垣間見えた時、全員に活力が甦った。間もなく、「雨飾山荘」の屋根が見えた。

レンタカー移動の為 出かけられた砂川会長、西口さん、高嶋さんには「申し訳ないな」と思いながらも、寒さに耐えられず他の8人は温泉に飛び込んだ。「極楽〜」「極楽〜」(ゴメンナサイ)

全員が揃ったところで、ビールで“カンパア〜イ!!”ディナータイムが始まった。延べ10時間の“雨飾山縦走山行”であった。

10月13日 朝 気温 2度 快晴

「雨飾山」は地元で別名「雨降山」という位、雨がよく降り4日に1日位しか良い天気にならないらしい。

今日山行の人達は“幸せだなあ〜”と羨ましく思いながらも“素晴らしい山行”を願った。

帰りの車窓から冠雪した山々が見えた。

## 青倉山・竹田城跡

日 時：10月19日(土)

参加者：L上田 SL山本(正) 青山 尾内 狩集 河合 小山 坂田(俊) 佐藤(昌) 坂田(敬) 中嶋

行動記録：JR竹田駅 9:25～登山口受付 10:00～竹田城跡 10:15～40～竹田駅 11:20→移動→青倉神社 11:45-12:15(昼食)～峠 12:45～50～青倉山 13:15～30～峠 13:50～黒川湖 14:00～黒川温泉 14:50 入浴ー黒川温泉発 16:00→JR生野駅

## ★ 人気の竹田城跡と閑かな青倉山登山

降り立った竹田駅は、格子窓に漆喰壁の駅舎で、城下町の雰囲気をよく醸し出し、背後にそびえる竹田城跡の山容に見事にマッチしている。駅の北に登山口の道標が見えるが、工事中のため通行できず、車道を登ることになる。線路と並行して延びる古い町並みの中を歩いて登山口へ。うだつのあがる古い町家は但馬街道の宿場町として栄えた当時の面影を忍ばせてくれる。

登山道は、ブームによって今日も多く多くの観光客でにぎわっている。この静かな街に各地から多いときで3,000人の観光客が訪れるという。自動車は500台、バスが30台にもなり、ついに夜間と早朝の通行を規制されることとなった。入山料300円の徴収も維持管理のためにはやむをえないことでしょう。

駅からは50分ほどで城跡へ。石積の城郭は、壮大で日本のマチュピチュ、東洋のマチュピチュとまで言われるようになった。どこからも竹田の町が見渡せる。写真を撮ったり、しばらく戦国の歴史を感じさせてくれるその威容を眺め、慕ってみる。ここは、春は桜、夏は新緑、秋は雲海、冬は雪景色と四季折々の風景が楽しめるようである。ちょうどこの時期、早朝には、天空の城と称される雲海にそびえる幻想的な城跡が見られるが、それは、下山後、竹田駅の観光案内所のパノラマ写真で楽しむ。

次の目的地である青倉神社へは、手配のタクシーで移動。目の神様として信仰の厚い青倉神社は、モアイ像を思わす巨岩に寄り添って静かなたたずまいである。その昔

## 尾内

は、山をいくつも越えて詣でたという。だから、ご神体もご神水もありがたさが並々ならなかったのであろう。今は、近くに多々良木ダムと黒川ダムができ、道路も駐車場も整備され、ふもとまで車が入り簡単に参拝することができる。

昼食後、神社の階段横より続く登山口から青倉山へ。紅葉には少し早いですが、自然林のなかを木の葉や木の実のいっぱい落ちた登山道をゆっくりと気持ちよく登って行く。黒川からの分岐で休憩後、1時間で頂上へ。閑かな山頂は、妙に落ち着きがあって居心地がいい。下山は黒川側へ、車道には25分ほどで着いた。

黒川湖畔を50分ほどゆっくり愉快地歩いて黒川温泉へ。黒い岩石が積み重なったロックフィルダム、人工の造形とここで暮らす人々のけなげな生活がまたここでも静かなブームを呼び起こしているのであろうか。風情豊かな温泉に、たっぷり浸かって至福の時間を過ごす。

帰りは、生野駅から乗車、帰路につく。今日も会の参加の皆さんと楽しく充実した山行ができたことに感謝します。



## 熊山&キリンビアパーク

日 時：10月20日（日）

参加者：L和田 S L澤田(律) 澤田(卓) 田羅間(勤) 中嶋 水上

行動記録： 姫路駅7:31→熊山駅8:31(8:50 発)～一本松9:25(9:30 発)～展望台10:00(10:05 発)～熊山神社10:50～熊山遺跡11:00 昼食(11:35 発)～村社八幡宮12:53(13:00 発)～万富駅13:31(14:15 発)→キリンビアパーク14:20→キリンブラウマイスターツアー→キリンビアパーク(16:25 発)→熊山駅着16:30(16:33 発)→姫路駅17:39

## ★ 熊山山行感想

感想文は久しぶり。次は屹度何時とも知れぬから「楽しかった、美味しかった。」等の無難を避けたい。

さて、山行前々日「かく“久しぶり“ゆえに秋晴れ。」と赤酒神の御託宣を借り宗教的予想を立てたが、当日、高砂の拙宅は小雨に包まれていた。重い気分が姫路から「快速」各停で西に一時間、熊山駅に着いたら止んでいた。

雲の厚みは薄く、千切れた雲もない。登る尾根の山腹に層雲が張り付いていたが、尾根筋は良く見えた。前日21時のAUPQ78の示す通り、地表近くの雲の動きは目視でも遅い。

これらから予想は・・・“途中小雨、稜線は降らない。”上記科学的予想を信じて雨具を装着せず、森の滴り除けに小傘を手にしたが、自信がないからメンバーには言わなかった。

歩道を歩いて10分「岡山白陵高校学生寮」の脇からいきなり雑木林。山道、参道、遊歩道、何とでも言えそうな道を霧雨に浸された葉々の滴を傘に鼓膜代わりに聞きながら黙々と登った。

山腹は樹葉に当たる雨音だけが聞こえて、傘は邪魔だった。重装備メンバーの脱ぎ支度を感じながら、ひとり軽装にも拘らず既に大汗をかいていたのは年中補給の赤水、琥珀水のせいばかりではない。

膝の完全回復を望んで一年半、会の山行、清掃登山、土曜トレのみならず20年来のトレをも止めた為だ。

登り始めて30分、和田さんの「小休止」で半袖に、しかし気温は低いから風に備えて

## 水上

手袋をザックから出した。

メンバーも1枚脱いで再び歩き始めたが、二人後ろの息使いも聞こえる。

山頂は降っていなかった。山上と思えぬ「研修室」で、座布団に座って再開された会話を聞きながら昼食。左右に分れた澤田夫妻の弁当箱、中身、量がいずれも同じである事に気付く余裕。

しかし、欲しかった暖かいトン汁やら暖房は無く、濡れた下着で冬を感じて誰が言うでもなく下山時間が早まった。

前夜の雨で滑りそうな、いつの間にか視界の無くなった道を下って、冬?の吉井川も見えないままに麓の神社に着いたら秋祭りだった。下界はまだ秋だった。

万富駅で「ビール”試飲。”送迎用バスを待つ時、雨が降り始めた。

「降っている！」に山友が「ウッソー」と言いながら待合室から出て来たとき、雲は低く朝よりも黒かった。

煙る視界の向こうの尾根筋を不図見ると乱層雲(層雲と乱層雲の違い：降雨の有無のみ)で全く見えなかったから、道は恐らく小川だ。



してみると「熊山」は我慢して「久しぶり」  
を精一杯歓迎してくれたみたいだ。

熊山さん有難う、同行5人の皆さんありが  
とう、さようならで姫路で飲み過ぎた。

## 日本大震災復興支援第6次ボランティア派遣

日 時：10月25日（金）～29日（火）

参加者：L砂川（延）大谷 高嶋 中村 村上（敬）

福島支援ボランティア行程表

10月25日（金）大阪駅前（地下鉄・東梅田）20：50発→

10月26日（土）福島高速バスターミナル（8：44着）→アットホーム大玉移動

※到着後、福島の山の放射線量の現状と線量計レクチャーを受けて県民の森内の  
遊歩道で線量計の実習を行う。 ※宿泊は（バンガローで自炊）

10月27日（日）線量調査登山を磐梯山、安達太良山、東吾妻山の3パーティーに分かれ登  
山口まで車で移動し登山道の線量を調査する。

※宿泊は岳温泉・岳の湯（自炊）

10月28日（月）午前・福島第1原発により、立ち入り禁止区域に現在も指定されている被  
災地を見学、午後・阿武隈高地「霊山」線量調査後、福島市内に移動して夕食後、福  
島高速バスターミナル19：35発で大阪へ。

10月29日（火）大阪駅前（地下鉄・東梅田）7：19着 解散

## ★「東日本大震災復興支援 第6次ボランティア派遣」に参加して 中村

汚染水漏れ・除染作業など、福島原子力発  
電所にかかわるニュースは毎日のように報  
道されているのが、いつも気がかりでいま  
した。今回、福島の現状を自分の目で確かめ  
たいと思い参加しました。

初日。支援目的の「登山道の放射線量の測  
定」について、福島労山の和泉事務局長・村  
松理事長から、取り組みの説明を受けました。  
登山道の放射線量は、国も自治体も計測して  
くれないという理由から、自主的に大学の先  
生の指導を受けながら始められたそうです。  
継続して測定が行われており、2年半過ぎた  
今は原発事故当初の数値より、徐々に下がっ  
ているようです。放射線量を測定する線量計  
は、4台所持。1台あたり10万円以上する  
精密で高価なものですが、全国連盟からの震  
災寄付金で購入とのこと。ありがたいですね。  
明日の測定本番に備え、近隣の車道を雨降り  
のため傘をさしながら、計測実習をしました。

路肩には、センプリやつるリンドウが可愛く  
咲いていました。

2日目。福島労山各会の皆さんにサポート  
され、吾妻山・安達太良山・磐梯山の3班に  
分かれて測定です。私は、吾妻山に登りまし  
た。台風の通過した直後とあってか？辺りは  
冬景色。山頂のハイマツは凍ってコチコチ、  
稜線は強風。最も楽しみにしていた火口湖、  
宝石の輝きをイメージさせる通称「吾妻の  
瞳」が見られなかったのが、とっても残念で  
した。肝心の放射線量は、頂上付近や沢では  
低く、原発方面の東斜面の窪地や、ぬかるん  
だ水たまりは高めでした。測定結果は、ある  
ところに送られ、資料に残るシステムになっ  
ているようです。

3日目。福島労山の村松理事長の案内で、  
放射線被害を大きく受けている飯館村・浪江  
町を視察しました。レンタカーが、飯館村に  
入ると、放射線量が高いせいで、線量計の警

報が鳴りっぱなしでした。車窓から見える田畑では、ショベルカーを使った除染作業が行われており、汚染した土壌を覆う青や黒のビニールシートがあちこちで見られました。

まず、到着したのは『希望の牧場・ふくしま』浪江牧場です。原発に近いこの区域では事故発生後、牛豚鶏の過半数が餓死したと思われる、生き残った家畜は国より殺処分の指示があったそうです。しかしながら、この牧場では、売り物にならない約1000頭の被ばく牛を「生きた証人」として飼育し続けています。原子力政策を押し進めてきた国と、安全対策を怠り、住民に大損害を与えた東京電力に対して、抗議活動をされています。厳しい汚染環境の中、生き延びる希望を見出そうと模索されているのがひしひしと感じられました。代表の吉沢さんの訴えに賛同。募金をして牧場をあとにしました。

次はいよいよゲートをくぐり、原発20km圏内に立ち入りしました。津波で流されてしまったため、どこからどこまでが農地か集落かわからない広大な大地、一面に雑草が生い茂っていて、そこには、オブジェのように打ち上げられた漁船があったり、鉄骨がむき出しになった廃屋があったりで、時間が止まった廃墟の世界でした。故郷を残し、余儀なく

避難生活をされている方々の哀しみが感じられました。

最後に案内されたのは、福島県北部にある霊山です。30分ほど登った見晴台からは、広陵とした阿武隈山地、福島市があるくぼんだ盆地、その先に安達太良山も眺めることができました。夕日に照らされたこの眺めが、たった3日間の滞在でしたが、福島を愛着あるものにさせたと思います。放射線被害の為、厳しく制限された生活環境ですが、お逢いした皆さんからは、淡々としたがまん強さを感じました。今後もこの地の復旧・復興を見守っていきたくと思います。

今回、ボランティア支援のはずが、逆に福島労山の皆さんから、おもてなしを受けた形



になってしまいました。お世話になり、本当にありがとうございました。

## 須磨アルプス

日 時：10月27日(日)

参加者：L:瀬尾 SL:苦瓜 大石 砂川(美) 長谷川(易) 野村 山下(雅)

行動記録:塩屋駅 9:07～旗振茶屋 10:00～おらが茶屋 10:30～高倉台団地 10:50～梅尾山 11:10  
～東山 11:55 (昼食)～板宿八幡神社 12:50～板宿駅 13:30

### ★ 六甲 (須磨アルプス) 塩屋～板宿へ

#### 山下

台風も通り過ぎ、当日は少し肌寒かったが、天気も回復して、いい山行日和でした。予定時刻を少し遅れて山行開始。このコースは、いろんな箇所から明石や神戸方面が眺められて、楽しめる所が多くありました。又、団地の中を抜けたり、階段の昇り降りも有り、少し変わっていました。



須磨アルプスの馬の背と呼ばれている所では、吹き抜ける心地よい風で汗も引き、今まで登ってきた道を振り返り、遠くまで、よく登ってきたなあと思いました。同行の皆様、楽しい一日を有難うございました。



## 雪彦山

日 時：10月30日（水）

参加者：La 澤田(律) SLa 西口 青山 兼澤 狩集 木村 島本 高嶋 開 宮崎

Lb 荘所 SLb 待場 内海 川上 北村 田中(美) 苦瓜 峯山 村上(敬) 山下(純)

行動記録：山電高砂駅 7:00→JR宝殿駅 7:10→姫路駅南じばさんびる前 7:50→鹿が壺登山口 9:10～千畳平 10:10(10:20 発)～稜線出合 11:00(11:05 発)～雪彦山山頂 11:20(11:40 発)～大天井岳 12:10(12:45 発)～稜線出合 13:05～千畳平 13:35(13:45)～鹿が壺登山口 14:20(14:30 発)→New サンピア姫路 15:15(16:20 発)→姫路駅南じばさんびる前 17:00→山電高砂駅 17:30

## ★ 初対面の“かかし”に親近感

今日は朝から雲ひとつない初秋の素晴らしいお天気で、今月初めての登山だった。少し不安が胸をよぎりましたが、集合場所へ。

雪彦山は一度登った事もあるし何とかなるかと思いつき、バスを待ちました。鹿が壺に近づくと、民家の前に道路の脇にも、田畑の中等あそこにもここにも身動きひとつせず何をしているのかと思えば、案山子がこっけいな様子で楽しそうに、たくさん作られていて思わず笑ってしまいました。平日とあって人の気配もなく、案山子達でにぎわっていました。

ストレッチをしながら ロッジの周りのもみじに目をやると、きれいに色づき目の覚めるような赤でした。山全体では緑が濃く(杉が多い)紅葉はこれからといったところでしょうか。

鹿が壺では、10ほど連なる滝を眺めながら、きれいな水に心を洗われる思いでしたが、夏だったら飛び込んでみたいだろうなあ、

## 峯山

思いを馳せながら登って行きました。

鹿が壺から雪彦山へ登ったのは初めてでした。千畳平までは落ち葉を踏みしめながら、杉林の中を進んでいきます。千畳平ではトイレ休憩ができました。その先は足元も悪くなり、必死の思いで稜線出合から三角点へ。トレーニング不足を感じながらも、なんとかたどり着きました。頂上付近の木々は、黄色や赤に染まり秋真々盛り。



お昼は見晴らしのいい大天井岳へ、もうすぐ山頂という時、大きなほら貝の音にびっく

り。修行の山だったんですね。行者さんが下りてこられました。さわやかな風を受けながら、見とれるほどの青空に感謝し、お弁当を食べることができました。ちょっと苦しいお腹を抱えて、下りは滑らないように気を引き

締めて無事下山。帰路サンピアゆめさきで汗を流し、苦しかった事は忘れて、気持ちよくなって帰ることができました。皆さんお世話になりました。

## 投稿欄

阿江さんから投稿していただきました。

作者：阿江





## ★ 上郡 愛宕山・生駒山（駒山）

日 時：9月8日（日）

参加者：La 和田 SLa 貝塚(文) 赤松 舛賀 内海 大石 狩集 野村 澤田(卓) 高嶋  
Lb 澤田(律) SLb 瀧原 田口(末) 田口(善) 苦瓜 多木 中嶋 西口 長谷川(孝)  
開 三木(勉)

行動記録：愛宕山登山口着 9:00(9:15 発)～展望デッキ着 9:45(9:50 発)～愛宕山山頂着 11:05(11:10 発)～展望デッキ着 12:00 昼食(12:30 発)～登山口着 12:50→バス移動→生駒山登山口着 13:10～生駒山山頂着 13:50(14:05 発)～登山口 14:35

## ★ 雨のち曇りの上郡山行

高嶋

愛宕山で検索すると、かなりの数がヒットしますが今回は兵庫県の上郡へ和田リーダーはじめ21名で愛宕山(411.1m)と生駒山(260m)へ行ってきました。

ものすごい大雨の後、秋らしい天気が数日続き日曜は朝から雨・・・また雨か・・・と少し残念な気持ちで集まり、午後からの回復に期待しつつ現地へ。バスを降りカッパ等雨具の準備をし、小学校の裏から山に入る。イノシシ除け?の金網が一面に張ってありツキノワグマ注意!の看板も目に入ってくる。出会えたらレアなどと笑っていたら、かなり大型の捕獲用檻を発見し驚く!?! 展望デッキまでは、階段状に整備された広い登山道。ここから先は、あまり人も入らないのか目印のテープも古く、地図とGPSを頼りに枝をくぐりながら足元も滑りやすいので注意して進む。

分岐でA班は尾根を進み、B班は途中の369m山頂経由で合流。待っている間に、まさかの道迷い?と軽く心配するがこんな時は携帯が便利。合流後、無事山頂に到着する。三角点以外何もなく、帰りは全員で369mの山頂へ。こちらには京都の愛宕神社から分社して祀る?祠があり、その前で記念撮影。展望台に戻り、昼食後無事下山。再びバスに乗り次の生駒山へ。途中寄り道してコープで買ったソフトクリームが美味しかった♪。登山道入口には駒山城跡と駒山?の看板。道は広くよく整備され迷うことはない。「馬の蹄跡」という礫岩の岩場もあり、山頂には本丸跡と二の丸跡があり展望も良く、涼しくて気持ちが良かった。



下山後、森と水のホテル上郡ピュアランド山の里へ、入浴の為向かうが残念ながら、営業時間外(15:30～)という事で予定を変更し、あかねの湯龍野店で入浴し、サッパリする。雨も予定より早く上がり、ワイワイガヤガヤと楽しい山行となりました。リーダーをはじめ、皆様ありがとうございました。

私的には、最近の傾向として山に行く日は雨天が続き、カッパを着たら止み脱いたら降るという状態で、ムレムレ登山にもだいぶ慣れて、楽しめるようになってきましたがどうしたら濡れずにすむか?天候の予測の必要性を実感!しました。

## 法沢山・高竜寺ヶ岳

日 時：9月15日（日）～16日（月・祝）

参加者：L:砂川(延) SL:待場 金島 坂田(敬) 長谷川(孝) 苦瓜 大谷 砂川(美)  
田羅間(勤) 武田 高嶋 石田 西口

行動記録

9月15日(日)

宝殿駅北 7:15—ひまわりの丘公園 7:50—法沢山登山口 12:25～小休止 13:00(13:05 発)  
～法沢山頂上 13:30～小休止 14:05(14:10 発)～登山口 14:40  
(ストレッチ等)－民宿「八平だるま」17:00 (泊)

9月16日(月、祝)

民宿「八平だるま」—日本モンゴル博物館 9:40 (11:15 発)～そばの里 12:00 (13:00 発)  
～加美道の駅 15:30～ひまわりの丘公園 16:30～宝殿駅北 17:30

### ★ 県境の山 法沢山へ

坂田

台風18号に追いかけられながら、兵庫県と京都府の境に位置する『法沢山』に登りました。小雨が降ったり、止んだり、県北の深い山々と、美しい田んぼの景色を楽しみながら2時間余りで出石町に入ってきました。

村道から草の生い茂る林道をしばらく進むと、もう人家などないだろうと思われる山中の一軒家に車が止まっている。そこで法沢山の登山口の確認をして進む。登山口の案内板のある、やや広い所にバスを駐車して小雨が降ってきたのでバスの中で昼食をとった。10分余り林道を歩くと登山口に着いた。急な階段道を登るとすぐ尾根道に出る。眺望はないが雰囲気の良い道を進む。皆、黙ってはいるが一体感を感じながら歩を進める。小さなピークを少し下ると、木々が伐採されたひらけた地が見えてくる。その向こうに鹿の親子が、こちらのざわつきに気づき、慌てて茂みに隠れる。途中、椎の実のような糞を沢山見かけたが鹿のものだったのだろう。



林道を横切って再び幅広いゆったりした尾根道を歩く。やがてロープの設置してある急斜面が、何箇所も続く。ロープを頼りによじ登りながら頂上へ。晴れていれば久美浜が、その向こうには日本海が見えるはずでした。山頂付近の急坂はロープをしっかりとつかんで慎重に下りました。麓から眺める法沢山はなだらかな山に見えたのに、頂上付近はきつい登

りでした。

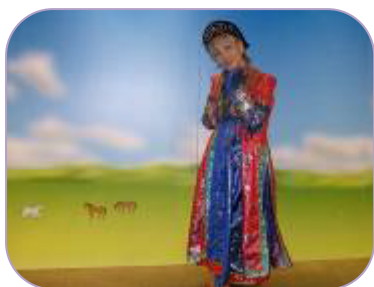
たんたん温泉『福寿の湯』で疲れを癒し、今日の宿、但東町赤石の農家民宿『八平だるま』に着きました。その頃には雨は本降りとなり、民宿の横を流れる小川の水量も増し、風も強くなり始めていました。

ばらずし、茄子の含め煮、万願寺とうがらしの炒め物等盛りだくさんの田舎料理に満足して明日に備えました。

## ★ 雨のち・・・雨

金島

ふと目を覚ますと暗闇の中にまだ雨は降り続けています。時計は朝の4時、昨夜から降り続く雨は一時も止むことなく夜を通して降っているようです。一人、二人と目を覚まし、窓に頭を押し付けながら外を恨めしく眺めています。秋晴れの京丹波を思いつきり楽しむ気構えでやって来た私達でしたがちょっと番狂わせ、昨日の法沢山登山に続いて今日の高竜寺ヶ岳も“雨模様”かな？ でも、ひよっとして出発のころにはお日様かも・・・と念じながらも少し布団の中でまどろみです。ここ「八平だるま



民宿」は幸か不幸かテレビの設置なしで昨夜から“一切情報なし”の静かな一泊を楽しみました。が、昨夜来、急激に発達した台風18号の渦中にいることに私達はまだ気付いていないのです。朝食を済ませ9時出発にも雨は止まず、とりあえず予定を変更で当地但東町の資料館、日本モンゴル民族博物館の見聞となりました。同じアジア圏にありながらモンゴルという国の偉大さを、国の歴史・文化、人々の生活を展示されたものから想像し一行13名は驚きと親しみを持ったひと時でした。11時ごろになると雨は何とか止み風はあるもののお日様の光があります。早めの昼食は蕎麦屋さんで済まし、とりあえず今日の予定の山へ出発です。山のふもとまでの細道は車がやっと通れるような狭い山道ですがリーダーの運転技術はお墨付き、私達一行はにぎやかに進行です。ところが、ふもとから10分くらい入ったところでなんと前方に7～8メートルはある倒木が道に横たわっているのです。おまけに昨夜の雨で道はぬかるみ状態、この狭い道を自動車ごとバックすることはできず、前進も後退も不可“万事休す”。この先、10メートルほど前進すれば少し広場があり何とか方向転換可能で引き返すことはできそうです。とにかく今は前進するしかありません。倒木の処理が先決問題で全員車を降りました。倒木の枝を払い道の端っこに押しやるも天に向いた木の根っこが木と木に挟まり力いっぱい押しやってもバネのように道の中央にズズズとずり落ちてくるのです。ぬかるんだ道を補強し、倒木を抑えるためそこら辺の石を拾い集めます。力の限り倒木を押さえてから車の後押しを12名が声をそろえて“ヨーイサ！”やっとのことでぬかるみと倒木から抜け出しました。全員の力が一つになるとこれは大きな力です。そして今度はUターンです。リーダーは車を降り方向転換のイメージを指で描きながら再度運転台に乗り込みました。男性陣は的確な誘導の声かけをしています。私達女性陣はオロオロ、右往左往と力にはなりません、そこは山で鍛えた心を一塊にすること、難を転ずる術をもっていることを強く感じる事ができました。車はものさしで測ったように正確に向きを変えたのです。全員が大拍手です。登山はあきらめることになりました。帰りの車で初めて道路の両端に彼岸花がいっぱい咲いているのを見つけました。台風18号となった大荒れの気象の中で私たち13名は何事もなかったかのように全員元気に帰宅することができたのです。“明日はお彼岸の入り、墓参りに行かなくっちゃ”独り言を唱えながら夕焼けの町に帰宅です。

何時の日にか今度こそ日本海を臨むことの出来る京丹波の山に登ってみたいな・・・ネクスト・チャンスです。楽しくてちょっと残念な私の今年の秋が終わりました。

## 後立山連峰/鹿島槍ヶ岳～針ノ木縦走

日 時：9月21日（土）～24日（火）

参加者：La 上田、SLa 舩賀、大谷、田羅間(易)、村上(敬)

Lb 和田、SLb 河合、切貫、塩津、三木(勉)

行動記録：

9 / 2 1 (土) 姫路駅 6:20→新神戸 6:36→名古屋 7:42 (しなの3号) →松本 10:05 (あずさ) →信濃大町 11:01→(タクシー→扇沢 11:30) 扇沢 11:50→柏原新道登山口 12:06→ケルン 13:16～13:30→種池山荘 16:40 (泊)

9 / 2 2 (日) 種池山荘 5:00→爺ヶ岳南峰 5:45～6:00→冷池山荘 7:10～7:25→鹿島槍南峰 9:37～10:20→布引山 11:00～11:10→冷池山荘 12:00～12:15→種池山荘 14:35 (泊)

9 / 2 3 (月) 種池山荘 5:00→岩小屋沢岳 6:38～47→新越山荘 7:30～8:10→鳴沢岳 8:57～ 9:15→9:25 1名転倒、右足首捻挫骨折、応急手当→赤沢岳 11:15

パーティを女性6名と男性4名の2グループに再編

女性6名 (L:大谷、SL:河合) 赤沢岳発 11:40→スバリ岳 13:45～14:20

針ノ木岳 15:00～20～針ノ木小屋 16:10 (泊)

男性4名 赤沢岳発 11:50→12:13 行動停止～救助要請 13:00→救助へり到着、

ピックアップ 15:37 男子3名 出発 15:50→スバリ岳 17:20～35→針ノ木岳 18:35～40→針ノ木小屋 20:00 (泊)

9 / 2 4 (火) 針ノ木小屋 6:00→大沢小屋 9:10→扇沢 10:24

### ★ 9月21日～22日 名峰鹿島槍で360度の展望を楽しむ

大谷

このたびの山行の交通手段は、バスの予約が取れなかったもので、新幹線を使っていく事に。

私は、山行で新幹線を使うのは今回で二度目になる。私は貧乏性なのでごく贅沢な旅行をしているような気分。しかし、時間的に節約になり、身体的にも楽だった。

姫路を6時過ぎに乗って途中、特急に乗り換え、扇沢に昼前頃に着いた。登山口から柏原新道に入り、紅葉坂の急坂を上って行くがとても暑い。ケルンが建つところくらいから、扇沢のバスターミナル駅が見えた。さらに登っていくと、水平道、水平岬、包優岬、鉄砲坂等の看板があって、少し気が紛れる。



そのあたりから最後のひと頑張りがとても大変だったが、暗くなる前に種池山荘に着いた。9月も半ば過ぎなのに、こんなに暑いとは。まるで真夏の高御位山を歩いているように汗がしたたり落ちる。8月の夏山(八ヶ岳)山行の方が涼しかった。

種池山荘ではほとんど水が出ないので、小屋が出してくれる水の券(1ℓ)でうがい、飲水に使う。

次の日、種池山荘を5時出発、まだ暗いのでヘッドランプをつけて歩く。ハイマツの間を抜けて爺ヶ岳南峰に着き、小1時間程して冷池山荘小屋でもらったおにぎりを、

食べたが水くさくて、のどに通りにくい。

冷池山荘からガラ場の斜面を2時間余りかけて、鹿島槍ヶ岳南峰にたどり着いた。北峰は見るだけで行かない事に。

鹿島槍ヶ岳南峰からは、五竜岳、白馬三山、穂高連峰等の私がこれまでに歩いた数少ない山が全部360度見渡せ、何時間でも座って眺めていたい！

卵スープとおにぎり朝食を済ませ、景色も満喫！又、ガラ場を足元に気をつけながら布引山に下って、冷池山荘 赤岩尾根（鹿島槍ヶ岳に登る最短距離だが厳しいコース）の分岐から爺ヶ岳を登らないで、巻道を通って種池山荘に着いた。良いお天気に恵まれ、鹿島槍ヶ岳を10時間近く歩いて無事下山出来たので、皆で生ビールで乾杯！！お疲れ様でした。

### ★9月23日～24日 天気、気温、景色 最高の山行 三木(勉)

天気、気温、紅葉の景色に恵まれ最高の山行でした。

9月23日（月）5時、種池山荘より岩小屋沢岳へ向け出発する。振り返ると爺ヶ岳、その北には鹿島槍ヶ岳がくっきり見えた。左下方は雲海の世界である。

2日間歩いたので、体調もすこぶる良好である。

前日は鹿島槍を目指す途中左手にずっと、あの剣岳、雄山（立山連邦）が雲一つない快晴のもとにみえた。今日は右前方朝日を浴びた剣岳、雄山がくっきりみえる。最高の景色である。

6時38分標高2630mの岩小屋沢岳到着、高度の関係か結構冷える。新越山荘へ向け出発、途中いわひばり？の鳴き声がよく聞こえた。

鳴沢岳、赤沢岳、スバリ岳と続くが結構険しく片側が絶壁、反対側はハイマツが生えているが急斜面である。いわゆる痩せ尾根、滑落すると一巻の終わりとなるような場所の連続で慎重に足を進めた。

はるか右下に黒部湖が望まれた。遊覧船も浮かんでいた。

スバリ岳から針ノ木岳また針ノ木岳から針ノ木小屋までの道はたいへんだった。

鳴沢岳から赤沢岳への途中、メンバーの一人が右足首ねんざ（骨折）したため針ノ木小屋到着は日もとつと暮れた19時56分であつた。

翌日、6時、針ノ木小屋出発、針ノ木雪渓を下り（高低差800m）9時10分あの有名な大沢小屋到着、最後の扇沢を目指す。

10時24分最終目的の扇沢到着、帰路の途中温泉に入り疲れを落とす。

この山行、9月23日（月）メンバーの一人が怪我をしたが今後の山行において誰でも起こりうることである。

決して山を侮らない、歩行に集中することが我々の義務であり責任である事を痛感した。

的確なリーダーの指示により無事下山出来たことに感謝する。



## 六甲半縦走逆歩き

日 時：9月22日（日）

参加者：La 大瀬 SLa 苦瓜 西口 野村 尾越 瀬尾 狩集

Lb 山本(正) SLb 西村 山下(雅) 長谷川(易) 開 三木(悦) 清水 砂川(延)

行動記録：阪神宝塚駅 9：30～塩尾寺 10：30-40～大谷乗越 11：50-55～大平山

12：20-50～船坂峠 13：20～石宝殿 14：25-35～土樋割峠 15：10-25

～東お多福バス停 15：45

### ★ 東六甲縦走を逆に歩く

### 尾越

秋晴れの中、まだまだ上りは汗が出ますが、東六甲山中を気持ちの良い風と共に歩いた一日でした。

一週間後の錬成山行のボッカも兼ねてのトレーニングと、六甲全山縦走の時は時間制限もあり、大谷乗越辺りからは薄暗く、余裕もなく歩くのでどんな山なのか、どんな道なのか、展望は？と今回はゆっくり楽しもうと思いました。

宝塚駅を出発後、住宅街の中に入ると少しずつ標高を上げ、住宅街を抜けた山中の車道でイッキに標高をあげ、塩尾寺下の縦走のゴール地点に着いた時には、今日の体力をほぼ使い果たし、ここまでが本当にハードで今日のハイライトでした。

塩尾寺からは本題の東六甲縦走路に入り、縦走時の急な下りが今日は上りになり、上りの方が歩き易く、岩倉山を通過し多少のアップダウンはあるが、歩き易い道を縦走トレの時は、「この辺りは凍っていたとか」、「急坂の危ないところは脇の木の根っこが手すり代わりになる」等思い出し、大谷乗越で車道を横断する時は、私達A班は道端に6人1列になり1、2の3で一斉に渡り、楽しく歩くことができました。



昼ご飯前の軽いお腹で大平山を登り終え、約30分のお昼ご飯と楽しい休憩の後は歩き易い道を、東お多福山バス停へ無事下山しました。

毎年3月に行われる六甲縦走東コースに比べると六甲最高峰、摩耶山は歩きませんでした、アップダウンのあるトレーニングにはもってこいのコースでした。

塩尾寺までの上りを考えると、縦走路が西から東で良かったと思い、来年の六甲全縦も「また歩きたくなるんだろうなあ」となぜか癖になる全縦のことを考えながら帰りました。計画をして下さったリーダー、メンバーの方々ありがとうございました。

## 国見山

日 時：平成25年9月29日（日）

参加者：La 尾内 SLa 多木 有本 石田 上川 香川 粕谷 川上 木村 高嶋 田中(美)

Lb 山本(正) SLb 中嶋 田口(末) 田口(善) 田中(由) 増田 峯山 宮崎 山下(純)

行動記録：国見の森公園 9:35～国見山 10:35(11:00 発)～学習館野外広場 11:10(11:20

発)～展望休憩所 11:40(12:00 発)～まつぼっくり休憩所 12:10～スギ木立

休憩所 12:15～柏原城跡 13:00(13:20 発)～長谷山遊鶴寺跡 13:45(13:50 発)

～交流館駐車場 14:20～比地の滝 14:25(14:30 発)～交流館駐車場 14:35

(14:45 発)～伊沢の里生谷温泉 15:00(16:00 発)



## ★ 国見山・柏原城跡をめざして

粕谷

高御位山遊会入会后、初めて実栗国見山山行に参加しました。

朝8時JR宝殿駅前にみなと観光のバスが迎えてくれて9名が乗車、姫路駅前で姫路方面からのメンバーを乗せ全員20名の山行でした。

秋晴れの空で、今日の気温は30度の予想でこの季節には暑いくらいでした。車の流れも順調で9時頃には国見の森公園駐車場に着きました。

A班、B班に分かれて柏原城跡目指して出発しました。まず驚いたのは鉄柵を開けて登山道に行くことでした。後で判ったのですが“イノシシや熊出没注意”の看板が所々に立っていました。今年は2頭の熊が出たそうです。

程良く手入れされた森の間を登り“しんどいな！休みたいな！”と感じた頃には少し平坦な道となり、強い陽射しも樹木が遮ってくれて気持ちの良い山登りでした。

歩を進めて1時間で国見山山頂に着きました。涼しい展望台で休憩を取り水分補給をしました。展望も良く北播磨の山並みが遠くに見えていました。とびきり高く三角形にそびえ立った山が「明神山」だと教えていただきました。氷ノ山が見えるかと見回しましたが無理でした。全員で国見山の標識の前で記念撮影です。



次に学習館でトイレ休憩、そして展望休憩所で昼休憩を十分取りました。おにぎりを食べた後、冷えた甘～いミニトマトをいただきレーシヨンの物々交換をし、お喋りに花が咲き楽しいひと時でした。

秋風が吹き気分爽快、汗がスー！と引込みました。すぐ隣、谷の向側にさっき歩いてきた国見山展望所が見えていました。

いよいよ柏原城社へ向かいます。足が滑らないよう階段が作られていて歩き易いやら、歩きにくいやら一步一步登っていきました。相変わらず木立の中を歩くので直射日光は少なくてよかったです。

「柏原城跡」の看板(目印)は何度も過ぎるのに、なかなか城跡には着けず疲労気味、山を2つ越えてやっと目的地の柏原城跡に着きました。そこは開けた見晴らしのよい高台にありました。が想像していたよりあまりに狭い場所でガッカリしました。帰り道は細く険しい下りが続き、足元が悪く滑り落ちないように神経を集中させて歩きました。危険な箇所は声を掛けてくれました。40分程で林道に出て、そこからすぐ狭い山道を下り「長谷山遊鶴寺跡」に着きました。太い木々に囲まれた所に寺院の形跡があり深山の寺跡が感じられました。

ここを過ぎすぐ林道に出てゆるやかな坂道をドンドン下り、比地の滝に行きました。冷たい水に手を浸し元気を取り戻し15時前に駐車場に到着しました。待っていたバスで伊沢の里「生谷温泉」にゆっくり浸かり汗を流してさっぱりし、全員無事に帰りました。山崎から姫路に向かって走行中に虹が見えました。バスの中でメンバーと盛り上がり何だかハッピーな気分でした。

新人でこの度の参加は私一人、知っている顔の人は少なく心細さがありましたが、そんな想いを吹っ飛んで楽しい山行ができとても嬉しく思います。次に参加する山行が楽しみです。リーダーさん始め皆様ありがとうございました。

### 運営委員錬成山行 白山禅定道（別山～室堂～薬師山～新岩間温泉）

日時：9月28日(土)～10月1日(火) 3泊4日

参加者：L:砂川(延) SL:和田 尾越 佐々木 澤田(律) 荘所 瀬尾 西村 待場 瀧原  
垣内 西口 苦瓜

行動記録：

場所	着	発	場所	着	発
9月28日			9月30日		
市の瀬ビジターセンター	12:30	13:00	室堂センター	5:20	
白山温泉登山口	13:20		中宮道分岐	6:05	6:15
ミズナラの大木下で取水	14:20	14:30	大汝峰東口	6:50	7:05
水場	14:55		御手水鉢	7:15	
チブリ尾根避難小屋（泊）	17:50		七倉ノ辻	7:35	7:45
9月29日			清浄ヶ原		
チブリ尾根避難小屋	5:30		樅が原・楽々新道分岐	10:05	10:20
御舎利山	7:55	8:10	薬師山	10:55	11:10
別山	8:35	8:50	休憩	13:20	13:30
チブリ尾根分岐	9:00	9:10	岩間ヒュッテ跡		15:30
2200m付近	10:00	10:15	新岩間温泉（泊）	16:30	
雨池	10:35	10:50	10月1日		
南龍山荘	12:30	13:25	新岩間温泉	9:00	
アルプス展望台	14:35	14:45	金沢駅	13:56	
平瀬道分岐	15:30	15:45	加古川駅	18:22	
室堂センター（泊）	15:55				

#### ★ 初めての錬成山行（9月28日）

瀧原

運営委員会で錬成山行をすると聞いたとき、自分の体力や技術力、山の知識を高めるために、迷わずに参加を決めた。

1日目、晴天。市の瀬からチブリ尾根を通過してチブリ避難小屋まで、ひたすら登っていくコースだ。いつもより重いリュックだが、3日間の始まりに気分は高揚している。ナラの原生林の森は、延々登りが続いても道は悪くなく、気持ち良かった。途中の水場では巨木の根っこから冷たい水が湧いており、水の補給で一息つく。原生林を過ぎ、丈の低いオオシラビソが現れる辺りから、別山が見え、白山の大きな山容が掴めてきた。この頃から、疲れが出てきて、早く小屋に着くことを願いながら1歩1歩、登って行った。



目の前に避難小屋が見えた時の嬉しかったこと！中は清潔で、トイレもきちんと設

けてある。体調不良のため食事が摂れなかったが、夜、外に出て満天の大きな星を眺めると、元気が出てきそうだった。しかしながら、この食べられなかったことが翌日にも響いてしまうことになった。山に入るということは万全の注意を払って体調管理をし、いろいろな場合を想定しておかなければならないことを学んだ。

“錬成” 1日目はこのように終わったが、残り2日、皆様に助けられ、最後まで歩き通せた。皆様の思いやりに深く感謝しています。

### ★ 白山錬成山行2日目（9月29日）

垣内

チブリ尾根避難小屋の朝はシュラフ、マットをたたみ、沸かしてもらったお湯で朝食をつくり、足元が見える5時30分に小屋をあとにした。チブリ小屋が少しずつ小さくなっていき別山が形を現してきた。三ノ峰終了山行のとき見た山である。そのときは実際に登ってこられるとはおもってもみなかった。別山神社に手をあわせ、頂上についた。思わず三ノ峰を探した。遠くに避難小屋が見えた。あそこから眺めた別山に立ったのかと思うと感無量である。かつては雪溪が見えたが今はない。

別山から南竜ヶ馬場まで4.7km、室堂まで6.6kmと出ていた。晴天である。花の終わったコバイケイソウが黒い軸を残し群生をしているなかを歩いていった。別山から南竜休憩所までの長かったこと、水も少なくなっていた。地図上で天池となっているところで休憩をした。とてもきれいな水でペットボトルにいれると透明であったので飲み水としていいとリーダーからOKが出た。飲んだ。生きかえる思いだった。結果だが、だれひとり下痢もしなかった。南竜ヶ馬場休憩所につくまでに水場があり助かった。お湯を沸かしそれぞれの昼食をとり、あいたペットボトルに水をつめた。

アルプス展望台では午後2時すぎになっていた。標識は石川県だ。途中チングルマの群生地をみた。葉は赤く色づき花はほうけて風に揺られていた。こけももやゴゼンタチバナのあかい実も、りんどうの紫の花の色も美しかった。白山の花も実や種をつけ子孫を残すための季節に入っているのだ。

白山室堂の赤い屋根と建物がみえたときのうれしかったこと、長い1日でした。室堂の外のテーブルで気象担当の佐々木さんは16時の気象通報を地図に書かれていた。大事なことだと気が付いた。この室堂で見た伸し餅を並べたような雲海に沈む夕日の美しかったこと。長い歩きをがんばったご褒美かな。付いていくだけで精一杯だったが私なりに学んだこと、教えられることがあり充実した1日となった。そして仲間との絆を強く感じました。

### ★ 紅葉に癒されながら（9月30日）

苦瓜

日も明けやらぬ午前5時、室堂センター前にヘッドランプをつけ集合となった。3日目ともなると足腰が疲れているからと入念なストレッチをして出発する。ハイマツの間のガレ場に足を痛めないようにゆっくりと登って行く。左に広がる雲海にご来光を受けた影御前峰が映し出されている。一瞬の“悦”を味わう。氷に覆われた翠ヶ池の後方には剣ヶ峰、御前峰を眺める。



大汝峰東口で朝食をとる。七倉山を過ぎた所で雲海に浮かぶ御嶽山、乗鞍岳、穂高連

山を眺め少し休憩をする。清浄ヶ原、見返り坂の登山道では時折、足を取られる。見返り坂では山肌を這うようにダケカンバやナナカマドなどが紅葉していてとても素晴らしい。疲れてはいるが滝の音や爽やかな風に心が癒される。薬師山からは下りの急傾斜でロープやハシゴに助けられながら下山。注意力と体力勝負の3日目の山行でやっと岩間温泉に到着、全員が揃うまで足湯につかる。新岩間温泉まではそれぞれが話に花を咲かせながら長い林道も苦にならなかった。

## 全体を振り返って

澤田

今回は新運営委員6名の参加を得て総勢13名で実施された。

白山にはいくつもの登山ルートがあるが、昨年の運営委員の錬成山行、白山信仰の古くからのルート美濃禅定道に続いて加賀禅定道である。市の瀬登山口から南龍ヶ馬場、白山室堂、一里野温泉までの行程である。これで美濃側から加賀側までの白山禅定道を全部歩いたことになる。3日間で約30kmの長い行程であった。1日目歩行時間6時間、2日目11時間、3日目11時間と長時間であった。体調が万全でない人もあったが全員、事故なく歩き通せたことは大きな収穫であった。

会長から「良いチームワークづくり」の提案が出され、全員がチームワークを考えた行動で登山の実施ができた。具体的には山行前のミーティングに始まり、現地までのアクセス、歩行速度、休憩、小屋泊まり、レーション、任務等全てにおいて協力しあいながら気持ちよく山行を実施し終了することができた。



また、3日間天気にも恵まれ眺望も良く北アルプスの山々を確認しながら歩くことができた。美しい雲海、紅葉、ハエマツの大群落など高山登山ならではの醍醐味を味わうことができた。これらの体験は今後の山行の良い指針になるだろう。

## 新登場：地区別自主トレ 姫路地区（2013年10月～）

### ★ 姫路・朝日山コース、初の土曜トレ

平井

姫路地区初の土曜トレーニングを、10月12日JR網干駅近郊の朝日山、檀特山で実施しました。秋晴れに恵まれ最高の一日でした。

なんと檀特山には新幹線が突き抜けていました。またトレーニングコースは適度な木陰もあり、歩きやすい良いコースと思います。土曜トレーニングは各所特徴があり楽しいコースばかりです。奮って参加をお願いいたします。

**集合：朝日山公園駐車場**（JR網干駅北側の道を起点に東に進むと、朝日山の看板があります。東から来ると見落とすので注意 急な坂を上ると駐車場があります）

